

## Japanese Path to Phronemos Education 日本のフロニーモス教育

US National Superintendents Roundtable, Fall 2008 Meeting,  
Long Island Marriott Hotel & Conference Center,  
101 Doolittle Boulevard, Uniondale, NY  
Shuzaburo Takeda, Executive Director, the Business-University Forum of Japan

### Financial Crisis and Great Leap Forward

話を、現下の世界の混乱から始めたい。金融危機は世界の大問題になっている。しかし、これだけでなく、テロの激化、石油の高騰、温暖化、また、HIVの悪化、ドラッグ蔓延、無差別殺人、青少年犯罪の悪化と問題続出状態である。

これをあたかも世界は崩壊に直面していると杞憂する人がいる。しかし、逆に世界は何回目かのパラダイム・シフト、いわば偉大な飛躍期 (great leap forward) に直面しているとする人もいる。

これらの見方には基本的に大きな違いがある。20 世紀に Deep Ecology という新たな視点を拓いたノルウェーの哲学者 Arne Naess に準じれば、前者は shallow かつ人間中心 (自己中心的・恣意的) で、後者は deep かつ自然中心 (脱人間中心的、理性的) となる<sup>1</sup>。また、前者は部分的な見方であり、後者は全体的な見方になる。

実は歴史で見る限り、この二つの見方に対しては一定の評価がでている。

それは、崩壊する社会があったとしても、あくまでこの偉大な挑戦 (grand challenge) に成功しなかったものに限られ、人類全体としてはむしろこの期を境により上質な社会へ飛躍したことである。

直近の偉大な飛躍は 19 世紀におきており偉大な挑戦に成功した多くの社会がでた。また、社会はそれまでの伝統・迷信・閉塞・封建的なものから、科学・理性・開放・民主的なものへと重心を移行させた。つまり、しきたりや身分制を中心とした封建社会から科学と平等制を中心とした近代社会へのマインドセットの切り替えがおきたのである。もちろん、この時の科学は、あくまでヒューリスティックなもので民主政と同じように、フルブルーフのものではないし、未ださまざまな欠陥を内包する粗野なものであった。ただ、それでもトータルでは間違いなくそれ以前の思考や政体よりは上質なものとなっていた。

これは今回のパラダイム・シフトでも同じで、科学・理性・開放・民主制という枠の中でより上質なものに飛躍を遂げる。この時におきる重心の移行は物質的な豊かさを求めたものから、精神的な豊かさを含めたものへと移行する。

前置きが長くなったが、私も前者の世界は崩壊するのではなく、人類何回目かの偉大な飛躍期を迎えている、と考えている。

..... 1 ページのみ掲載